

2012 年の『夏期合宿』(第 32 期)が 8 月 1 日から始まります。

例年、特に若い中学 1 年生が合宿の内容を把握するために『夏期合宿の軌跡』を発行してきました。(初めて合宿に参加する高 1 生も似たような不安を抱えているかも知れません。)

今年の『夏期合宿の軌跡』についてですが、近年掲載していた「去年の夏期合宿の記録」(主に塾長ブログから抜粋したもの)は P D F ファイルの形で、ホームページに掲載することにしました。(その方がカラーで読めますからより分かりやすいと思います。)

従って、今年の軌跡は、歴史回顧・(大学生になった)過去の中 1 の反省文・去年の各学年の合宿反省文から構成することにしました。(ホームページには、近年の『夏期合宿の軌跡』も掲載しています。)

(URL <http://www.niji.or.jp/home/lesekreis/>)

☆次の『歴史回顧』は、2005 年にまとめたものです。それを 2006 年、2007 年と加筆しました。歴史を知らない、愚行を繰り返すことにもなりかねませんから。

夏期合宿の歴史回顧

2006 年の夏期合宿は第 26 期。今までの 4 分の 1 世紀(!)の間には、いろいろなことがありました。合宿の思い出については、1999 年に『合宿の歩み』という小冊子を発行しています。それからでも随分長い時間が経過しました。そこでまず、合宿の全般的な歴史や設備の状況が分かる記事を掲載します。これら(第 1 話～7 話)は、2005 年にホームページに掲載したものを加筆訂正したものです。

☆第 1 話☆

合宿は、今年で 27 回を数えます(「試行」を含めると 28 回)。最初は、プレハブを(夏の間だけ)リースし

て大変でした。そして、これは(主に中 2 で行われる)「宿泊学習」よりもずっと前になります。食事、洗濯など日常生活すべてを分担して行うということは「宿泊学習」がまだ手をつけていないことですね。

合宿をすることによって、私たちと生徒たち、生徒たち同士の「垣根」は圧倒的に低くなります。もちろん、当初は 1 週間を基本としていましたから、「もめごと」もあれこれ起こります。そうした「もめごと」を曲がりなりにも解決することから、また次の課題も浮かび上がってきました。(最近の合宿は短すぎるのです。)

もちろん、「学習面」でも、当初は平常の 1 カ月分以上(今でも 2～3 週間分)のことが消化できます。合宿を契機にして単語嫌いを克服した人もたくさんいます。(役割はありますが、テレビやゲームはありませんから。)

設備も年々少しずつ整備してきました。昔の生徒が見たら、きっと「言葉も無い」状態になっています。厨房は建物の中に(ということは昔は「外」だった!)入っていますし、寝床はゆったりしていますし、最近



ら。トイレも水洗トイレ(半部分が洋式。)ですし。(掃除をさぼって、蛆を発生させたのは遠い昔のことです。)

教室は教室で整備されました。(ということは、「食事だ」で机や椅子を片付けなくていいし、「通路教室」もないということです。(笑))

暑い中で、汗を流しながら料理を作り、洗濯をし、それこそ「ジュース」や「お菓子」もない中で、テキストにポタポタ汗を落としながら「周りの目もあって」(?)勉強するのです。そうした時間の合間に食べる桃やスイカの美味しさ、グラウンドでのソフトボール、自然の風の快適さ。そうした日常こそ大切なのではありませんか。一過性のイベントではなく。

☆第2話☆

今日はシャワー室の歴史。今のシャワー室は3代目。(一番最初の「掘っ立て小屋」での露天シャワー室を除いて)「露天シャワー室」を思い出したついでに少し書いておきましょう。

当時住んでいた家(その横にプレハブを建てて合宿を行いました。)には、シャワーは(当然)1台しかありませんから、人数をこなすことが出来ません。家のシャワーはやはり女子優先で(女子は甘やかされていますよね・・・), 男子を一举にシャワーをさせようということで、「掘っ立て小屋」の屋根に子供用のプールを載せて、太陽熱で温水にし、そこからサイホン^{サイホン}の原理で(これ、今の中学では学ばないんですね)、「湯」を落とすという計画を思いつきました。(そうすると一挙に5～6人できるぞ!と。)

ところが、あいにくその日は曇り空で、屋根のプールの水は水のままだったのです。はしごをかけて、鍋で沸かした湯を入れましたが、ほとんど効果はありません。

ところが、その狭い空間に詰め込まれた男子たち、キヤーキヤー言いながらも結構楽しんでる様子。それから随分仲良くなったことは言うまでもありません。(何も隠すものがなくなったからかも?)(これが「水シャワー」です。)

さて、それから3年目(1983年)、もと校舎の「払い下げ」があって、巨大なプレハブが手に入りました。(4間×10間)今は亡き「旧食堂・旧女子部屋」です。そのプレハブを、実家の田んぼをつぶして建てました。その横にシャワー室を作ったのです。もちろん手作りです。

原理は「水シャワー」と同じです。違うのは、屋根にはタンク、湯はボイラーの湯。しかしこのボイラーが「曲者」で、もちろん中古品ですから、湯量が少な

いのです。屋根の高さも低かったので、水圧は推して知るべし。しかもタンクが小さかったので、よく「湯切れ」になりました。それでも、一度に3～5名ができたのです。身体中に(時には頭に)泡がついているとき湯切れになって泣いた人もいることでしょう!

そして、抜本的な改革を図るべく、それから4年後(1987年)、新シャワー室を設計しました。タンクを大きく、高さを高く、そして一挙に10名がシャワーできるというものでした。しかし、せっかく、タンク台を作ったのにタンクが上がりません。ロープで引っ張ったり、棒でついたり・・・ロープで支えていた子(これが何と高3)の腕は棒になっていたそうです(今小3の子がいるとか)。

しかし「はしごを使う」ということを考え付き、あつけなくタンクは設置できました。このシャワー室はみんなに感動を生みました。3分間からその倍にシャ



ワー時間も延びましたし。ただ、一つだけ難点がありました。純粹の個室ではなかつたのです。間仕

切りはありましたが(ということは、それまで、間仕切りは・・・), 使った湯が足元を流れていくのです・・・。(途中でボイラーは新しいものになっています。)

そして1993年、本格的な合宿所設備の整備に入りました。この年に合宿所本館・トイレ棟とともに、新シャワー室ができました。もちろん、完全個室(一つ



一つの個室に排水溝がある!)です。しかしタンク台(鉄骨で出来ている)を人力で運ぶのは大変

でした。今思えば、よく怪我をしなかったとしか言い

ようがありません。

ところが、シャワー室の格好は出来たのですが、中の間仕切りが間に合いません。私一人ではどうにもならない時に、強力な援軍が現れました。K君です(当時京大生)。彼の手助けもあって、何とか合宿初日に間に合ったのです。

そして、K君に釘を渡していた(間仕切りをするということは、コンパネ等の釘打ちが必要になります。)のが、Mさん。今、2人は2児の親! そうです。ここから始まったとか。

☆第3話☆

「旧食堂・旧女子部屋」の話です。その手に入れた「元校舎」は天井も高く、しっかりしたものでした。(さすがに・・・ですね。)その建物を、これまた廃品の柱にカンナをかけ(もちろん私がです)、再利用して3つの部屋に仕切りました。廃品の柱は勿論、寄贈品です。協力者はいるものです。

当時としては、清水の舞台から飛び降りる気持ちで(さて、高3、英訳してみよう!), 「大工道具」を購入し、朝から作業にかかっていました。10間の長さのうち、女子部屋に3間、男子部屋に2間(と言っても、女子部屋との間には押し入れやロッカーを作りまし



たから、実質は1.5間。残りが食堂部分です。(そういえば、各部屋に畳(これも貰い物)を敷き詰めていたとき、思い切り蹴って押し込めた瞬間に「ぎっくり腰」になりました! 今の持病の始まりです。)

※「間(けん)」のレクチャーです。色々な日本の建物は基本的にこの考えでできています。1間×1間が1坪で畳2畳に相当します。従って、女子部屋は4×3で12坪、24畳部屋ということになります。理屈では。つまり、プレハブでは1間が短いのです。(大体182cm普通は190~195cmくらいでしょうか。この近辺では。

関東ではプレハブ並みだそうですね。)

食堂は、時には教室であつたりもしました。それでは複数学年いますから教室が足りません。そこで、テラスや通路を教室にしたのです。

男子部屋は、もちろん足りませんから、「作りつけ」の2段ベッドを作りました。風が通りませんから、そ



の暑かったこと暑かったこと。女子部屋もその部屋に30名以上詰め込みましたから、決して快適ではなかつ

たことでしょう。ふとんは3人で2枚だったように思います。

もともとイタズラ好きですから、寝静まった頃、食堂で、焼き鳥を焼いたりして・・・そうすると、その「香り」が特に男子部屋に漂います。2段ベッドの上から食堂が覗けましたから、次々に起き上がってきたり・・・

さて、その旧本館も狭くなり、合宿中は新たなプレ



ハブをリースして、まず男子部屋がなくなりました。ということは、男子は、そのリース

したプレハブで寝るのです。その暑いことと言ったら、旧男子部屋の比ではありませんでした。窓用換気扇を買って取り付けたときの快適さを覚えている子もきつということでしょう。

それで、新本館(現在の合宿所本館)建設とともに、(新食堂を同時に建設する余裕がなかったため)旧本館は、食事だけのスペースになりました。女子部屋は教室に。それで旧本館を「旧食堂・旧女子部屋」と呼んでいたのです。そうすると新女子部屋は? 本館の2階です。(今の第一女子部屋)風通しはよく、快適な部屋でしょう?



やがて「新食堂」(これについてはまた後日)建設とともに、旧食堂・旧女子部屋は、「教室」としての役割だけ

になります。(本来の役割ですね。)

しかし、専門家の診断を受けた旧食堂は、柱(鉄)はボロボロ状態でした。そして、2001年12月に解体と



いうことになったのです。今、その跡地に北教室(2002年)が建ち、南教室(2003年)が建ち、広いテラスもできています。

☆第4話☆

新食堂(現在の食堂)は、実は3号館の建っているところにありました。1991年、現在の3号館の用地を取得し、そこにプレハブでしたが、4間×6間総二階の「小学部」を作りました。(間仕切りをして3教室+講師室。トイレは高級プレハブでした。接続部分は例によって手作り。)

1994年に、3号館建設の構想がまとまり(11月に完成)、その小学部を合宿所に移設しました。隣に広い



厨房をとり、カウンター(3間分の長さ)も設置しました。そして2階を男子部屋にしたのです。それでも

人数の割には狭く、大量の2段ベッドも購入しました。

その後、1996年に食堂を3間延長し(同時に男子棟(4間×6間総二階)も建築。やっと男子専用の建物ができるしました。(笑))、現在の大きさの食堂になったので

す。(4間×9間ですから、72畳ということになります。)そして、二階は、「第二女子部屋」になりました。これで、1期当たり100名を越しても、比較的ゆったりとした合宿生活が送れることになった訳です。

この間、1995年には講師棟(4間×5間総二階)も作りました。あちこち移動していたスタッフの寝床が



確保できたのです。(それにしても合宿中の男子スタッフの部屋(二階)は、余りにも整理が行き届いていて、ちょっと公開できません。(笑))

開できません。(笑))

これらの建物の配置は、騒音や光ができるだけ外部に漏れないように、風通しがよいように配慮しました。また、各建物は、テラスや廊下でつながっています。

☆第5話☆

去年の合宿には東大生4名を始め、たくさんの大学生スタッフ(すべて卒塾生)が参加しました。今年ももちろん彼らのヘルプを期待しています。



今でこそ、卒塾生の数も多く、「遊びたい心」(失礼! いろいろな活動)を犠牲にして、たくさんの大

学生スタッフが合宿の協力をしてくれます。でも、もちろん最初からそうではありませんでした。

最初の2年間(多分)は、大学の後輩のK君がわざわざ東京から来て手伝ってくれました。彼は、高校時代全国模試でトップをとったこともある人です。(今は、3人の子持ち!)その上、いろいろ気が付いて、しかも優しく、ホントに東大生には珍しいような素敵な人でした。彼のような大学生を輩出しようという一つのモデルに今でもなっています。

彼は、別府出身です。そうです。庭を掘ると温泉が

湧き出るという。ある時、風呂から出てきたK君に「湯加減」を尋ねると、「まあまあ」とのこと。「それはそれは」ということで、その後風呂に入ると・・・何と、手も浸かりません。もちろん、熱くて(笑)。やっぱり、温泉の本場の人は違うな、と「結婚式のスピーチ」で述べたのを思い出します。

「旧食堂」が出来た時には、塾外からM君(現役東大生)に来てもらいました。合宿中M君の「彼女」が急逝しました。喪服を貸してあげたり・・・命の儚さを感じたり・・・。

それから、(たぶん)2年間くらいは私の学生時代の親友のI君が来てくれました。彼は、大学卒業後、また受験し、今は精神科医として(恐らく)活躍しています(笑)。

そうこうするうちに、初代の高校部の卒塾生(塾発足当初小6…この学年が塾を引っ張ってきたのです。成績面でも。)が大学生になり、以後延々と続く、卒塾生による合宿スタッフ制度が出来上がりました。中でも記憶に残るのは、初代の早稲田大のA君、その2歳下の慶応大のN君です。特にN君は大学生時代、そして(「休暇をとってまで)社会人になっても、(たぶん)6年間は来てくれたと思います。感謝しています。そのパワーとスピードは尋常ではありませんでした。もう「時効」だろうと思いますが・・・炎天下のグラウンド整備を一緒にして、冷蔵庫の裏に隠れて2人で飲んだビールの味は格別でした！(当時は、講師室などありませんでしたから。)

スタッフを思い出すと、本当に、よく働く人たちがした。そうした幸運を感謝せずにはいられません。彼らなしでは、4分の1世紀に及ぶ「レーゼクライスの合宿」は不可能だったでしょう。

しかし、ふと思ったのですが、長い期間続けて合宿に来たのは、ほとんど男子です。女子は殆ど続きませんし、数も少ないですね。(Mさん・Mさん・Hさん・Tさんを除き)やっぱり、女子は、行った所で根付くのかも？やっぱり男女は違いますね、という暴言を吐いて、また次回！

☆第6話☆

近年、合宿初日の昼食は「たらいうどん」に決まっています。これは今では各班の親睦と「最初の料理」として最も無難(天ぷらを揚げるくらいのものでから)ということですが、実は始めたのは1990年です。そう、忘れもしない、あの平安戦のあった42年ぶりの丸亀高校野球部の甲子園出場の年です。



甲子園に出場するという事は、生徒は応援に行かなければなりません。そうすると、合宿とぶつかるし、何より

私たちだって応援に行きたい！何せ42年ぶりですから、「この次」は無いものと思いましたが。(その後2000年には春夏出場しています。)

そこで、3つの方法を取りました。合宿は当時も4期制でした。まず第1に、何と3期の日程を1日早めたのです。そうすることで、3期と4期の間を1日空けました。(その日に試合があったのです。勿論応援に行きました。)連絡を回して。それが可能であったということ自体恐ろしいことです。そうすると、2期の最終日と3期の初日の昼食が「ぶつかる」ことになります。当然食器などが足りません。

そこで、考え出したのです。「たらいうどん」を！



「たらいうどん」なら割り箸と「つゆいれ」があれば何とかできます。ということで、始まったのです。

高3英語の文章に、「書き出すと、その書くことに応じていろいろな考えが浮かび、話しが思わぬ方向に発展する」という(趣旨の(笑))ものがありました。今、まさにそうなろうとしています・・・

さて、第2の方法です。きっと1回戦で負けと思っていたのが、勝ってしまいました。そうすると、ま

さに4期の合宿中に試合が入ることになります。4期は高1半分・高2半分・中3の選抜という編成でした。合宿所から高校の集合場所まで高校生を送迎することは決まったものの、中3をどうするかということになり・・・結局、ワゴン車3台に分乗して甲子園へ向かいました。それが「雨中の「平安戦」」だったのです。(運転手は私と昨日のN君と高校部がなくて悔しい思いをした世代のH君)

高校生には「おむすびに塩こんぶ、つけものにソーセージ」という全員そろいの、しかも新聞紙でくるんだ弁当を持たせました。(聞くところによれば、少し人に笑われたけど、合宿中の全員が食べていることを思い、心強かったそうです。(笑))当時は校長先生始め、知り合いの先生方がたくさんいたので、チケットもいただき、中学生も高校生と一緒に頑張って応援です。

試合は、延長戦(0-0のまま)となり、雨まで降り出しました。しかもナイターです。そして・・・何と勝ってしまったのです(ベスト8)。問題は、それからでした。高速道路を飛ばして(暖房にしながらですよ)、先に合宿所に帰り着き、それから高校生を迎えに。たくさんの子は濡れて寒そうです。合宿所では、熱めのシャワーと食事を用意していました。全部真夜中の出来事です。

さて第3です。翌朝の起床は10時。しかも合宿最終日に試合ということになってしまいました。そこで、合宿を1日早めに切り上げたのです。その代わり、「塾学習」を1日とるということにしました。

準決勝の相手は天理(優勝校です)。試合前の練習を見た瞬間に、これは・・・と思いました。全く違うのです。体格から何から。(ちょっと安心もしましたが・・・)

「たらいうどん」から随分発展してしまいました。ただ付け加えておくと、このときの高2から中3にかけて、高1の学力テスト9連勝が達成されたのです。(未だに破られていない記録です。2年余り、学年トップを独占したのです。(3年間12回中11回トップということも素晴らしい。後の1回は2位!))



だから、「机の前で勉強する」だけが「勉強」ではないのです。雨の中、必死で応援する行為も「勉強への集中力」という点

では貴重なことなのです。

☆第7話☆

1991年の合宿では、都合で、高3理系を2期に固めました。ところが、学校の補習(課外)とぶつかる日ができたのです。それは「もめごと」が表面化するまで私は知りませんでした。

今もそうですが、当時もいわゆる(「否定語」ですよ)「ダッシュクラス」にはたくさんの塾生が属していました。そのクラスでのことです。ある、事情をあまりよく知らない子が、漏らしてしまいました(課外と合宿がぶつかるということを)。そして、担任は当



然のように「課外に来い」と言ったのです。

ほとんどの塾生は、何も言わずに、合宿に来るつもりだったようです。しかし表面化してしまいました。しかもかなり強い口調で言われたようです。

たまたまその担任と私は高校時代の同級生でした(名前を知っている程度の)。そこで、電話をし、いろいろ話しをし、結局、その担任は「生徒の自由にさせよう」と提案しました。私たちは、そうすると合宿に来ると思っていましたから、そういうことは言えません。彼は、当然「学校」を選ぶと信じていたのでしょうか。そして、合宿初日、誰一人遅れることなく合宿に来ていました。

高3が勉強している(自主学習)部屋に入るのが憚られるほどの緊張感があつたと高2のある子が感想を残しています。「連棟式プレハブ」の、2階を歩けば、

埃が落ちてくるような部屋(つまり天井を張っていない!)でしたが。

(この高3, 34名の主な進学先を記録しておきます。)
(東京大2, 京都大3, 大阪大2, 神戸大3, ……)

以上で「思い出話」はおしまいです。これで合宿所の歴史や設備などの概略が分かったことでしょう。

次は、中1の子達の反省文です。中1は、「初めてのレーゼクライスの合宿」ということで、何かと不安も大きいでしょう。また、逆に、小学校以来の様々な「宿泊学習」で、おかしな思い込みがあっても困ります。それでこのようなコーナーを作ることにしたので。ただし、これらは、既に大学生(社会人)になった諸君が、中1の時に書いたものです。イニシャルの後の大学名は、中学部を卒塾し、丸亀高校へ進学し(1名だけ坂出高校)、そして、その大学へ進学した諸君(つまり、最低6年間通塾!ということは6回合宿を経験することになった諸君)のものです。今年(2012年)、大学に入った子たちのまで含め、10年間分の中学1年生の反省文を各年度約4名ずつ抜き出しました。たくさんの反省文があって、掲載するのを選ぶ作業は難しいですね。

◎『第17期(1997年)』◎

○久しぶりに包丁をにぎってみて、うれしいような悲しいような、複雑な気持ちでした。そして、いざ切り始めると、きゅうりの輪切りがなんと、下まで切れてなくて、持ち上げると、びろ〜んとながっていたり、じゃがいもの皮をむいているときに、皮がむけないで、指が切れそうになったことも何度かありました。でも、その分、きちんと輪切りがで



きたり、皮が速くむけたりしたときの喜びは、何ともいえませんでした。

(T・A)(香川大・経済)

○…………間食をしないせいか、1回にご飯を平均3杯くらいは食べた。うどんなどは5玉は食べていた。塾長の話しの中に、うりだけでごはんを8杯食べた人がいた、と言っていたが、さすがにそれは無理があると思える。来年はできればそれを目標にしようか、と考えてみたりした。

(M・K)(東京大・理)

○僕は、洗たく係になって最初の日、洗たくの仕方が分からなくて、2年や3年の人に聞くと、細かく洗たくの手順を教えてくれた。2日目、洗たくの仕方が分かったので、もうできると思ってや



っていたけど、今度は洗たく物が多すぎて、一度には洗えなくて、2度に分けてやるととても時間が

かかった。3日目、今までの反省を生かして洗たくをするとスムーズにできた。

(Y・M)(東北大・経済)

○合宿には、本当に勉強と遊び(?)の両方があった。一番印象に残っているのはグリ単だ。なぜか2回ともわが班がトップで、最後の反省会でプリンを自分の班だけ食べられたからだ。しばらく優越感にひたっていた。それともう一つ。2回とも20点



で、プリンの上にアイスクリームももらったからだ。確かに美味しかったけど、それまでの5

日で、「アイスクリーム」とか「ジュース」とか「おかし」とかが全然必要でなかったの……などとはいっても、やっぱり美味しかった。

(S・O)(早稲田大・教育)

◎『第18期(1998年)』◎

○私にとって、合宿中での一番の出来事は、グリ単を洗たくしてしまった事です。洗たくをしていると、グリ単がなかったから、どうしたのかな、と思っていると、友達が、「洗濯機の中じゃないの」と言うので、見てみると、なんと緑色の物が中でまわっていたのです。取ってみると、やっぱりグリ単でした。…そのまま、続けていると、脱水機の音を聞いて塾長が来てしまい、塾長にグリ単の事がばれてしまいました。でも、なんにも言われなかったのが、少しホッとしました。……いつもより点数がよかったのがうれしかったです。

(M・H)(岡山大・薬)

○あれは合宿1日目の夜の事です。班員全員がシャワーを済まして1年生3人で服を洗たくしに行きました。ふつうに服を洗たく機の中に入れ、ふつうに洗剤を入れ、ふつうに洗たくを始め、その場から離れることもなくずっと洗たく機を見ていたのに事件は起



きたのです。洗たくが終わった音が鳴ったので、僕は洗たく機のふたを取りました。すると、洗たく機

の中にあるはずの衣類が全く無くなっていたのです。「なぜだー」と思い、もう一度よく見てみると、犯人が分かりました。それは、洗剤を入れ過ぎたせいとか、洗たく機いっぱいにつもった大量の「あわ」でした。

(K・M)(京都市大・法)

○この合宿での一番の思い出は、やはりグリ単です。……合宿前までは10点前後(1ケタがしばしば)だった私が、19点、20点を取りました。今まで満点をとったことがなかったので、うれしかったです。勉強すれば、必ず点は取れるということを実感しました。家でも、これだけ勉強すれば取れるのにと思ってしまいます。…

(A・N)(東京工業大・3類)

○合宿での一番の思い出は、グリ単のテストで20点

をとったことだ。今までに満点をとったことは、たぶんなかったもので、これは本当にうれしかった。合宿で



の班別学習は、家で勉強をするよりも、数倍は能率があがった。先ばいは、分からないことがあると、すぐ

に教えてくれた。その先ばいは、ほとんどぼくたち1年生に色々なことを教えてくれていて、自分は学習時間が少なくなったにもかかわらず、グリ単は連続20点だった。尊敬する！合宿では、なぜか勉強するのが楽しかった。友達や先ばいといっしょにできたからだと思う。

(S・H)(岡山大・農)

◎『第19期(1999年)』◎

○僕が反省したい点は、役割の朝食準備です。上級生の人にほとんどのことをまかせてしまい、何もしていませんでした。食器の皿の枚数数えなども、指示をもら



わないと、うまくできませんでした。みそ汁のつぎ分けが、数が足りなくなってしまっ

て、すぐに作ったみそ汁も味付けがとても濃かったらしいです。この合宿でおもしろかったことは洗たくです。初めてした時は、ちゃんとできるか少し不安だったけど、しているうちに、なぜか楽しくなってきた、明日は色分けをちゃんとしてみようとか考えていました。干す時もいかにバランスをとってほそうかと考えながら楽しめました。

(Y・K)(大阪大・理)

○……私は皿洗いをしていました。4人で同じことをしているのでそれほど大変ではないと思っていました。でも思っていたのとはけた違いでした。とにかく、すごい量。家で手伝いをしているのとは大違い。4人



でしていてもなかなか減らず、もう途中で逃げ出したいと思ったりもしました。でも、そう思いながらも、やっ

とのことで片付いて終わった時は、何だか心がすっきりしたような気持ちになれて、「やってよかったな」と思えました。

(C・O)(徳島大・薬)

○合宿で大変だったのは、昼食準備でした。勉強を途中で切り上げて、いろんな意味で熱気ムンムンの所で



働かなければならないなんて。トホホ。初日のたらいうどんは天ぷらのせいか、熱くて熱くて

たまりませんでした。うちわを持っていけばよかったなとかいっていました。そして、その時に、すごい秘技をあみだしたのです。「秘技！つゆグルグル回転アタック」この技をあみだしてからはけっこう楽でした。内容は企業秘密です。

(K・K)(東京大・文3)

○……でもテストが戻ってきた時、ぼくは正直言って驚いた。ゲリ単のテストの中で二番目に低い点数だったからだ。それで僕は勉強が少なかつた



たからだ。それで僕は勉強が少なかつたと思って反省している。……最後の反省会で、その反省会が合宿の中で一番目く

らいに楽しかった。喜多さんが歌ったときは少しうるさいとか思ったりしたけど、けっこう楽しかった。自

分の班の順番が来た時は、自分に当たるかもしれないので少し緊張した…

(K・H)(東京大・理3)

◎『第20期(2000年)』◎

○……合宿中に食べた桃とスイカは最高でした！果物のことで一番印象に残ったのは、ソフトボールをしていた時に食べたスイカです。あの時は、私はBコー



トで試合を見ていたのですが、塾長がBコートまでスイカを1つ持ってきて「今切ったスイカおいしいよ！！」と言

って、その場で1口スイカを食べて見せました。そして、「う～ん、おいしい。」それを聞いて、Bコートの試合を見ていた女子は、ほとんどの人がスイカを食べに行きました。私もそのうちの一人なのですが、そのスイカは、本当にあまくて、おいしかったです。

(N・Y)(岡山大・薬)

○ぼくの班の役割は、夕食片付けになったんだけど、すごく大変でした。それは、夕食前の班別で、少しはゲリ単を勉強していたけど(少しなのは時間がまだあると思ったから)、夕食後、片付けを終わったら、急いでシャワー、単語テストなので、全く時間がなくて困りました。次の日からは、ゲリ単を窓のサッシとガラスの部分(フレーム?)にはさんで、おぼんをふいていました。しかも、先輩の洗うスピードがメチャクチャ速くて(追いつけないほど)、つかれました。ちなみに、グリーンポットのごみ捨てで、何か、かかしがこっちをにらんでいるような気がしたり(片手がなくて怖さ倍増!)・・・

(R・I)(神戸大・国際)

○ゲリ単をここまで集中し、覚えたのは初めてだった。今までは、適当にパッパと見て、テストをしていた。しかし、合宿中は、自分が悪い点をとってしまうと、班のみんなにも迷惑になってしまうので、必死に勉強

して、発音記号や反意語、同意語まで覚え、テストした。班の人も、みんなおもしろい人ばかりで、寝る前とかに、一緒に話したりした。だけど、勉強になると、人が変わったみたいに真剣になって勉強していた。分からない所を質問すると、とても分かりやすく、ていねいに教えてくれた。それだけでなく、発音記号の覚え方なども教えてくれた。あの班になれて、本当に良かったと思う。・・・ (K・H)(大阪大・理)

○私が合宿をしてみて、一番驚いたのは、1日のうちで、勉強することができる時間が多いということでした。本当は役割があったりそうじがあったりで、家にいる時よりも勉強できる時間は短くなるはずなのに、家でやるよりも、たくさんの量をすることができました。「時間ってつくろうと思えばいくらでもつくれる



んだな」と思いました。次に驚いたのは、まわりの友達のやる気!!消灯ギリギリまで、中2や中3の人に

教えてもらいながら宿題をしている友達を見ると、「寝てる場合じゃないな・・・」と思い、自分もテキストを開いて、問題にとらめっこしていました。

(M・J)(一橋大・商)

◎『第21期(2001年)』◎

○いっぱい勉強した。勉強した時間は、びっくりするくらい多かった。グリ単で高得点を取ったのは、かなり久しぶりだった。桃がおいしかったので、1日4個ぐらい食べた。昼食の片づけで、初めて「ため洗い」ということをした。6時にバッチリ起きられたので安心した。ソフトボールで、ボールがバットに当たった時は感激した。・・・ (Y・A)(横浜国立大・経営)

○ある夜、ぼくが一生懸命せんとくをしていた時の事・・・せんとく機の中の水の色がなんと赤〜くそまっていた。「なっなんだこれは!!」とぼくがさ

げぶと、あるA君が「それ色おちしとるやん。」と言いました。ぼくは、絶望しました。みんなに「おい!なんやこれは!」と怒られる所が頭にうかびました。ぼくがなんとかしようと考えていると、あるB君が「別々にすすぐとえんちゃん」と言われ、そうだ!と思い、がんばってすすいでいると色がおちました。「やったー」と心の中でさけんでいたけど、自分の服だけうすく赤〜くなくなっていました。

(S・N)(一橋大・商)

○……昼らへんになって昼食準備の班やったけん昼食つくりになった。今まであんまり作ったことなかったけん3年生や2年生の先輩にいっぱい教えてもらった。2日目の玉ねぎ切る時とかも、けっこう教えてもらったけん、終わるころには前よりうまくなったと



思う。・・・朝はきみょうな音楽で目がさめた。けっこう寒かった。グラウンドまで歩いていく

時はあくびがたえることがなかった。ラジオ体操は小学校が終わってやっとしなくていいと思ったのに再びせんといかんので少しショックだった。そのあとの草ぬきは草ぬきではなく草ちぎりだったような気がする。でも最後の日に、山下さんが「これぬけるよー」って言った草が軽々ぬけたけん急に草ぬきに目覚めてぬける草ばっかさがしてぬいた。

(Y・M)(大阪大・工)

○初めての合宿で、3年生が恐かったりしないかな、と心配だったけど、意外と3年生はおもしろくて、よかったです。グリ単は、一生懸命に勉強したので高得点でした。初の満点もとれて、うれしかったです。大学生の人達も、おもしろい人達ばかりだったので、楽しく班の仕事や勉強ができました。思い出は、シャワーの時に、3日全部めがねをかけてあらってしまった

ことです。みんなに笑われました。二つ目は、昼ごはんのかたづけの時に、バケツの中に泡が入ったまま水



をかけたら、泡がモコモコと出てきて、2年生のY君と遊んでいたことです。そして、このあ

との生ゴミを捨てるグリーンボットはめちゃめちゃ臭かったです。(T・M)(東京大・理I)

◎『第22期(2002年)』◎

○……第1回目のゲリ単は不本意な成績をとった。平



均点もいつもよりはるかに高かった。だから2回目は、必死になって勉強した。洗たくしながら友達

といっしょに勉強した。この時間が楽しくて、洗たくが好きになった。(K・T)(岡山大・医)

○まさか連続満点がとれるなんて夢にも思いませんでした。勉強した時間はいつもとあまり変わりませんでした。でも、どんどん単語が頭の中に入っていくような感じでした。これも、合宿パワーなんだなあと思



いました。合宿所は、とても静かで集中することができました。だけどこれからは、普段からいい点が取れ

るようにがんばりたいです。この合宿はとても楽しいものでした。寝る時だって、思っていたほど暑くはありませんでした。洗たくは、最初の方は、どれくらい

回せばいいかやどれくらい洗剤を入れたらいいのか分からずに、とても苦労しました。でも、最後の方になると、だいぶ慣れてきて、すばやく終わらせることができました。……(T・N)(東京大・文I)

○……僕が学んだことがいくつかある。1つ目は洗たく機の使い方。これは家に帰って驚いた。合宿のは全て洗たくそうと脱水そうが分かれていて目のはなせないのだが、家のは全自動でピピピピでOKなのだ。こんな所でも合宿所の不便さが分かる。2つ目はスイカのゼータク食い。塾長直伝で、しかも「うまい」と言われた。3つ目は人間、クーラーがなくても寝れるということ。クーラーのタイマーで電源が切れたとたん飛び起きる僕がクーラーなしで寝れたのはすごいと思う。ソフトボールはとてもおもしろかった。野球歴0の僕でもヒットが打てたのだ。それは2-5で負けている時のことだった。二死満塁でバッターは僕。かなりあせった。しかし運よくボールがしんに当たり、1・2塁間をぬけていった。その時のうれしさはたとえようがない。……

(D・M)(大阪大・経済)

◎『第23期(2003年)』◎

○……先ばいがいろいろな事を教えてくれたので、とても楽しくすごせました。ゲリ単のテストがあつて、読み方の分からない単語がありました。なかなか話せなかった班の人に聞いてみました。すると、優しく教えてくれました。それからは、いろんな人と、ふつうに話ができるようになり、いつも有意義な時間がすごせました。果物時間では、どんどん桃を食べました。今まで、あまり好きではなかった桃を一つ食べてみました。すると、とってもあまく、1口でとりこになってしまいました。(M・K)(岡山大・教育)

○……1番夕食の片づけがつらかった。次から次へと皿が出てくる。ずっと立っていると「こし」が痛かった。この時、お母さんのありがたみを改めて感じた。

合宿から帰って、お母さんの手伝いをよくするようになったと自分では思ってます。そして、私はグリ単のテスト勉強を本当に必死でやった。……同じ班の1年生と問題の出し合いをした。1日目は夕食片付けの後、発音記号を覚えようとしていた。でも役割が終わるとすぐシャワー。そしてテスト。私は1日目のテストで発音記号を班別学習でよくやってやっとならば良かったと、とても後悔しています。3日目(2回目のテスト)は、失敗をしないようによくやって取り組めたせいか、初めてグリ単で満点でした。すごくうれしかったです。

(A・K)(関西学院大・教育)

○100人近い人数のごはんをつくるのは、とても大変な事でした。いつも家でつくっている量よりはるかに



多く、特にからあげをつくったときは死ぬかと思うくらい暑かったです。でも、一生懸命つくった

かいがあり、塾長先生も「おいしい」と言ってくれました。テストの方は全然ダメで、2枚とも満点をとることができませんでした。テストが終わって、「もうちょっと勉強しとったらよかった。」と何度も思い



ました。本当に残念です。やはり、何と言ってもソフトボールがおもしろかったです。あまりソフトボールな

どする機会がないので、上手にバッティングできるかな、とか、エラーしたりしないかな、とか不安ばかりでした。でも、ホームランも4本ぐらい打てたし、守備の方もいいプレーができたので、ぼく的には100点満点だと思います。(H・J)(横浜国立大・経済)

○……グリ単を見ながら洗たくをした。先パイに使い方を教えてもらって、最初は不安だったけれど、洗たく機を使えるようになった。今では、今までできなかった洗たくが、家でもできるようになった。でも、洗たくをするのにとても時間がかかってしまった。もっとうまくしなければと思う。でも、洗たくをしながら風呂(シャワー)あがりのコーヒーマルは最高だった。……うれしかったのは、先輩から声をかけてくれたことだ。やっぱり1年からはかけづらいうれしかった。私が2年になったら、どんどん1年生に声をかけてあげたいと思う。

(Y・A)(京都大学・医学部人間)

◎『第24期(2004年)』◎

○1期は、はじめの2日間は、台風のせいで、楽しかったソフトボールができなかった。雨のため、教室



から教室への移動も大変だった。しかしそのおかげか、ソフトボールでヒットを打った時の快感

は、雨のせいでつづいていた不満をボールといっしょにとばしてくれた。チームは勝ったり負けたりだったけど楽しかった。(T.M)(岡山大・文)

○2日目になると、少しはなれてきて、先輩に質問してみたり、課題を終わらせたり、とよくやるようになってきていました。夜の単語テストは、みんな



ないいつもと違って本当に熱心に勉強していました。ぼくも、みんなが勉強しているの

を見て、「今日の単語テストは、いつもよりもう少しだけでもがんばろう」と思い、班別学習の時間にも単

語の勉強をしていました。4日目の最終日には、起きた時に「もうここを出ていくのか」とか「もう少しここにいたい」と思っていました。

(K.K)(名古屋大・法)

○1年のベータチームに勝ったので、3年生と試合をしました。ぼくは、この時3ランホームランを打つことができました。とてもうれしかったです。結果は1



0-5で3年生に勝つことができました。とても楽しかったです。それと、夕食片付けの時は大変でした。

からあげの後の大なべとかは、汚れていて、なかなかおちませんでした。でも、一生けん命みがくとだんだんきれいになっていって少し面白かったです。

(J.K)(香川大・医)

○役割を終えるとシャワーが待っている。その後、大



量の洗たく物を洗っていると、単語テストが始まってしまう。単語テストが終わった後、急いでほさ

なければいけなかった。2回目は間に合わそうとし、シャワーの前に水をためておいた。けれど結局間に合わなかった。今度する時は、もう少し良い案を考えて行ってみようと思った。合宿に行く前、とても暑いだろうなと思っていた。予想通りとても暑かった。家へ帰る時、やった一すずしいと思っていたら、クーラーをしている所はまーまーすずしいが、家の廊下はとても暑かった。風がないからだだった。合宿所はどこにでも風がある。私は、どちらかというと、どこにでも風がある合宿所のような所の方が好きだと思った。

(M.N)(早稲田大・基幹理工)

◎『第25期(2005年)』◎

○……合宿1日目、どこに何があるのか分からない状況の中、いきなり始まったのが昼食作りです。私は家ではろくに料理もしたことがないし、ちゃんとできる



のかなと思っていたら、班長をはじめとする先輩が「ほう丁はここにあって、まな板はここにあるから。」

というように全部説明してくれました。また、洗たくをするときも合宿初日は最初から最後まで全部つきっきりで教えてくれました。自分もグリ単等の勉強で大変だと思うのに、私に分からなかった問題を分かるまで説明してくれました。来年は今までしてもらったことを忘れずに、初めての合宿の人に教えてあげられるようにしたい。

(K.H)(岡山大・農)

○夕食の片づけはとてみたいへんな作業だった。おぼんを洗ったり食器を洗ったり、その数がぼう大な量なのだ。私は、おぼん洗いをした。洗っておぼんをふいていくという作業だ。最初は服がぬれてしまったりしていたが、二日も三日もやっているとだいぶコツがわかってきた。夕飯片づけが終わったときは思わず声を出して「ヤッター」と言ってしまうほど喜んだ。

(M.S)(香川大・教育)

○……ソフトボールでは、はじめはバットを振るのがいやで、はじめて打つ事になった時は失敗ばかりだったけど、何回かやっていくうちにバットにボールがあ



たるようになり、(アウトばかりだけど)とてもうれしかったです。班別学習の時には宿題や課題などで先ばいに質問したら、きちんと説

明してくれて、とても分かりやすくてびっくりしました。来年は私が質問される方の立場になると思うと、ちゃんと答えられるか少し不安になりました。しっかり勉強しておこう。

(M.K)(山口大・人文)

○合宿で一番楽しかったことは、ソフトボールと夜。ソフトボールは生まれて初めてしました。始めは、「やらない!」と思っていました。でも、いざやってみると、とてもおもしろかったです。最初は、ボールカス



トライクか、見分ける余裕もなく、ただバットをふっているだけでした(というより、ソフトボールのルール

さえも分かってなかったんで…)。でも、だんだんボールを見分けれる余裕も出てき、ファールながらも、バットにボールが当たるようになりました。そして…カキーンと打って、一塁へ。やった!! と思ったら、「ハイ、交代～」の声が……

(Y.A)(京都府立医科大・看護)

◎『第26期(2006年)』◎

○自分で洗たくや料理などをするのははじめてでいろいろ勉強になりました。洗たくもはじめは、やり方



も分からなかったけれど、先輩や友達からやり方を教えてもらって少しずつできるようになりました。そ

うした中で、干す時に服のしわをある程度とってから干したり、洗っている時にグリ単をするなど工夫できるようにもなれました。合宿中のご飯はとてもおいしかったです。やはり、汗をかきながら勉強した後だからでしょうか。特に、かぼちやの天ぷらがあまくて、今までたべたかぼちやの中で一番おいしかったです。

(S.K)(京都大・農)

○…いくら初めてのこととはいえ、集団での行動は今までに全く経験が無かった訳ではなかったはず。もっと周りをよく見て冷静に考え対処することが出来ていれば、この期があそこまで(3期は最低と)言われ



る事はなかったと思う。この新たな発見は来年、再来年にも活かすことが出来ると思うので、ず

っと忘れないようにしたいと思う。でも、せっかく3学年が集まっているのだから多少は話すことも大事だ。例えば、

自分のやっている課題で分からない所があればすぐ先輩に聞く。こうして会話することによってこれからも使える勉強法を伝授してもらえたり、次からは勉強以外のことでも気軽に質問できたり…といったようなことも後からついてくる。……

(A.Y)(立命館大学・法)

○…私はこんなに1日中勉強したのは初めてだった。4日間も音楽は聞けない、マンガは読めない、アニメは見れない、ラジオは聞けないというのはつまらないと思った。だけど2日もすると慣れて、アタフタしていた日程も少しずつ解るようになってきた。ソフトボールをするのは面白かったし、スイカや桃はおいしか



ったし、先輩方と話してもりあがるのも楽しかった。単語テストで2回目の満

点が取れたのも嬉しかったけど、1番嬉しかったのは、1回目の単語テストでビリだった私達の班が2回目でも1位におどり上がったことだ。世の中予想できないことばかりだなあと思った。……

(S.A)(大阪大学・人間科学)

○ぼくの思い出は、ソフトボール大会いらいに丸亀校の人たちに会えたことです。……洗たく係になって初



め少し教えてくれてあとは自分達でできたことと夕食前に洗たくしておえて単語テストの勉強が

できていつも以上に点がとれたことがよかったです。果物時間ではスイカと桃を食べて、いつもはあまりたべなかった桃を、この合宿を通して少しずつ食べるようになってきました。……ソフトボールはほとんどしたことがなくて空振りが多かったけどヒットを打ったときはうれしかったです。……

(S.K)(名古屋大・工)

次は、去年(2011年)の中1～高3までの諸君の『合宿反省文』からの抜粋です。

2011年合宿反省文より

2011年(第31期)夏期合宿は、7月31日(日)～8月17日(水)の間に行われました。中学生が1・3期、高校生が2・4期でした。

中1

○私は正直、合宿前は合宿があまり楽しみではありませんでした。でも、実際に合宿に行くと、最終日には、「帰りたいくない!」「もっと合宿所にいたい!」と思いました。そう思ったのは多分、いつもの生活が乱れた勉強もあまりしない生活よりも、充実感や楽しさを



感じたからだと思います。勉強に楽しさを覚えることができたのは、きっと勉強をする中に、果物時間やソフトボール・夕食作りなどがあったからです。『テスト』が2回あるというのも、プレッシャーながらいいいシゲキに

なりました。班の一人として、足をひっぱりたくない!そんな気持ちが、より勉強をするはげみになりました。……

(M. I)

○2日目は、グラウンドでの草ぬきをしてびっくりしました。「まさかこんなに草があるなんて」と思って



しまいました。ぬいてもぬいても、草はたくさんあって、気が遠くなりそうな感じでした。でも、山下さんがいっき

にもものすごい量の草をぬいていて、「すごすぎる!」と思いました。

(M. O)

○昼食の片付けや班別学習のときに計画をしっかりとて、次なにをしなければいけないかということを常に考えていたのすごく充実していると自分では思いました。1日の生活の流れは、

ラジオ体操→勉強→朝食→勉強→そうじ→数学→班別→昼食→片付け→勉強→ソフトボール→夕食→勉強(洗濯)→反省会→勉強→寝る、という感じでした。ほとんど、自由時間がなく自分のやるべきこと(課題や宿題)を探して勉強していくという感じでした。

(A. F)

中2

○大学生や異学年の人達と一緒に何かをするのは良い経験になった。普段、家でテスト勉強をしているが、合宿中には班ごとに分かれて勉強した。班員の合計点



で競い合うこともあって、「自分以外の人のために努力する」絶好のチャンスだと思った。

合宿の生活は、炊事・洗濯・掃除…など、何から何まで自分たちでやらなければならない。だから、いつも自分は周りの人に支

えられているんだなあと感じた。

(R. T)

○役割では、自分たちの班は夕食片付けになりました。僕は、外で主に鍋などを洗いました。夕食ではごうかなメニューが出される反面、メニューのごうかさに比



例して、片付けはとても大変になっていくのです。特に、カレーの日の時は、とても力仕事になりました

た。スポンジではまったくよごれがとれず、金たわしじゃなきゃいけませんでした。洗剤を使い、金たわしで一生懸命こすり、水で洗い流した後の達成感は、なんともいえませんでした。

(T. M)

○今年は昼食準備ということで、(去年は片付け)また違った役割から色々感じ取ることができました。それは、「作る側の努力は作る人にしか理解できない」ことです。……天ぷらを揚げている男性陣の感じる暑さはとても言葉では表現しにくいです。扇風機があっても、天ぷら鍋付近の温度は外とはあきらかに違いま



た。昨年天ぷらや唐揚げや、食べきれなかったものを思い出しました。ちょっと昨年の自分を情けなく思いま

す。こんなに汗だくで全員分の食事を作っているのだと思うと、「なんで作ってくれた側のことを考えられなかったんだろう、理解できなかったんだろう。」としみじみ感じました。結局役割に楽はありません。去年と違う立場たって、初めて分かりました。自分が相手を理解して、本当に相手に感謝するためには、相手の立場に立たなければならぬと思います。…

(S. M)

中3

○合宿の中で1つ思い出があります。それは2回ある単語テストです。……どちらも満点までは行かず惜しくも19点でした。しかし、班員全員皆良い点をとっていたので1回目、2回目共に優秀班でした。……大事なものは結果よりもそこまでの努力だと僕は思いま



した。なぜなら、普段だったらもう少し悪い点だったかもしれないところを努力が点を押し上げ

たように感じたからです。

この合宿では努力の大切さというのも学びましたが、他にも他人のために頑張ることの大切さも学びました。単語テストでは頑張って高得点を取ってくれている人たちのために良い点を取りたい、皆が美味しいと感じるような料理を作りたいと感じるようになりました。

(K. O)

○私はじゃがいものふかし方とか知らなかったけど、この合宿で学べました。自分達が作った中で、一番自



信を持てるのはこふきいもです。簡単な料理だけど、すごくおいしかったです。今まで嫌いだったけど、好きになり

ました。それは、うまくこふきいもが作れたのもあるけど、もちろん塾長達が作ったじゃがいも本来がおいしいからです!!こふきいもだけでなく、カレーのにんじんやきゅうりなど、新鮮でおいしかったです。合宿では、野菜や桃などのおいしいものを食べられるのも醍醐味だと思いました。

(N. I)

○私が去年より成長できたと思うことは、まわりをみるよゆうが持てるようになったことです。過去の2年



間は自分のことで精いっぱい、全く周りに目がいていませんでした。……班長ともなると、自分のことはできていて当たり前でなければならないと思います。

(Y. N)

高1

○今回の合宿で「学習」について感じたことは、合宿ほどの時間があっても、まだ足りないということだ。手を付けられなかった教科もあつたりして、高校の学習は本当に多くの内容があり、多くの時間を要するんだと改めて感じた。生活の面では、今まで何度も経験してきただけあって、



高2、高3の先輩方の役割のこなし方はとても速くとても正確だったように感じた。一応自分もそ

れに劣らないよう頑張ろうとはするが、やっぱり先輩には劣ってしまった。でもこれは、回数どうこうよりも、気持ちの持ち方にあつたのかもしれないと思う。自分はどこかで「誰かやってくれる」という甘えの気持ちがあった。そういう意味でも、やっぱりまだ幼いなと感じた。

(H. T)

○中学生の頃とは違い、高校生の班別平均点は合計点が1点や2点違うだけで順位も変わる恐ろしい世界



だった。4班は3位で、1位の班との合計点差は3点。あきらかに私の責任だと思った。

プレッシャーがかかった。今度は班員のみんなに迷惑かけないようにとにかく集中してやろうと決意した。別のテストとも重なっていたので、単語テストにかけられる時間は1回目より短かったはずなのに、自分でも驚くほど集中できた。結果は19点と前回よりも4点上がり、さらに判別平均点でも1位をとることができた。私は、時間がいくらあっても質の良い、内容の濃い勉強をしないと意味がないと感じた。あとある程度のプレッシャーの中でやると、意外に勉強がはかどることも分かった。ただ、料理だけは、プレッシャーの中作ったら、失敗してしまった。みなさんすいません。

(S. Y)

○果物時間が楽しみでならなかった…食べたことがないくらいおいしかった。1年分の桃は食べたと思う。



勉強合宿。まさにその通りの合宿だったと思う。自分が学習すると同時に質問に答え

ていたが、相手が理解してくれるように教える。そのためには自分が十二分理解していないとできない。教えることで自分も学んでいるのだ。教える、この行為の難しさを感じた。

(T. Y)

高2

○毎年思うのなが長いようで短い合宿であつたように思える。長いと感じたのは、単語テスト前の5分間。本当に集中できたし、いつもこれぐらいの気持ちで勉強



できたらしれほど身に入るだろうかと考えたほどだった。短いと感じたのは、夕食

準備のときだった。始まりが遅かったせいもあり、30分くらい遅れてしまった。途中で火が消えるというハ

ブニングもあった。そこからが3年生は違っていた。すぐに行動に移り、テキパキと作業を始めた。本当に頼りがいのある3年生であった。自分が自分の仕事を見つけることもできずにいるときはいろいろ指示をくれた。来年は自分が3年生になる番である。自分にはできるだろうかとしばしば思った。

(T. N)

○合宿のスタッフの大学生は、私には、何かとてもカッコよく見えて、ああなりたいなあ、勉強の意欲がわいてきます。



1年生に4回くらい数学の質問をされたんですけど、私も分からなくて、2分の1

くらいの割合でしか答えられませんでした。その2分の1も、大学生スタッフの人のようにはうまく教えられるので、もっと勉強しようと思いました。

(K. S)

○四日目の夜、悲劇がおきた。「からあげ」という庶民的な食べ物を作るということで、まあ、楽に出来るだろうとたかをくくっていたのが、甘かった。山のよ



うな「肉」、「肉」、「肉」!そして、それをあげて、あげてあげまくる!油がはねる、はねる、はねる!そして、

自分はこう思った。「帰りたい…」と。とにかく熱かった。室内で、扇風機もつけないで、あんな高温なところにいたので、本当に死にそうだった。でも、今となってはいい思い出。

(Y. T)

高3

○そんな中で印象的だったのが大学生スタッフの行

動。どの人を見ても頭の良さはもちろん、料理ができ、



リーダーシップもあり、見習うところがものすごく多かった。ついついそんなスタッフに頼ってし

まい、班長がすべきことまでもしてもらっていたのには情けなかった。……2年前は遠い世界にいた人達に今は手が届くかどうか、と考える今の姿を高1の僕が見たらきっと驚くはず。そしてもっと驚かしてやりたい。

(T. M)

○合宿では食事、清掃など普段は家族がやってくれていることを自分達でしなければならず、「勉強」合宿なのに時間のロスなのではないかと一見思われる。し



かし、そういうことを集団ですることこそが真の勉強のあり方だと思う。一人で部屋にこもって勉

強していたら、確かにテスト点は取れるかもしれない。しかし、テストの点をとること＝勉強という構図をもったまま大人になるようでは何かを見失っているように思う。そういう意味で合宿は意義があるものだと思う。

(S. K)

○合宿が始まり、特に3年ということもあって、3年だけの自習が多くなり、周りの皆の様子を見て、心底自分が恥ずかしくなった。ただひたすらに黙々と集中して解き続けるという姿勢(それが、受験生として当然の姿なのだけれど)机の上に積まれた分厚い問題集、書く音だけが響く空間。しばらくレーゼに行っていなかった分、自分の中からすっかりそういう姿勢が抜けてしまっている事を思い知らされた。そしてそれと同時

に、初めから「できる人」なんて居ないという事も実感した。そういう人程、黙々と「これから先」を見据えて行動して努力していきける人なのだと知った。私自身を思い返すと恥ずかしい限りだ。部活、携帯、数々の誘惑に負け自分に甘い自分をこの合宿で、いさめられた気がしている。実際、恐ろしい様に思われていた1日8時間勉強は特に苦も無く、むしろもっとやりたいと思えるようになっていた。

(M. K)

《編集後記》

今年度(2012年版)の『合宿の軌跡』を発行します。近年行っていたブログからの抜粋は、PDFファイル化をしてホームページに掲載することにしました。

「大震災・大津波」から1年余り。あのときに思った『精一杯生きる』という決意を常に検証しつつ、また改めて、頑張ろうと思っています。



今年は、8月から合宿を始めることになり、(いろいろな学校行事がありすぎるのです)、また

高校生合宿を2・3期に戻しました。



今年も、みんなと一緒に合宿できる喜びに感謝しながら、暑そうな夏

を、熱い想いで過ごそうと思います。一人一人が知恵と忍耐力を合わせて精一杯の努力を尽くしましょう！

2012年(第32期)の夏期合宿予定は以下の通りです。なお、例えば丸亀高校が甲子園に行くなどのハプニングが起これば、日程を変更することもあります。

○第1期(中学生)…8月1日(水)～4日(土)。

○第2期(高校生)…5日(日)～9日(木)。

○第3期(高校生)…10日(金)～14日(火)。

○第4期(中学生)…15日(水)～18日(土)。

